

## 居場所づくりのために

「居場所」は、学校、職場、家庭、自分の部屋など、物理的な空間も意味しますが、他者との関係のなかで、自分が安心して居られるところ、という意味もあります。心理的な意味での居場所は「こころの拠り所となる関係性、および、安心感があり、ありのままの自分が受容される場」と定義されており、近年では、「生きづらさ」を抱える人にとって、社会の中に自分の居場所をつくることは重要な課題となっています。

らぶらすでは平成29年度、居場所づくり事業として「セクシュアル・マイノリティのための“世田谷にじいろひろば交流スペース”」や「シングルマザーのほっとサロン」、「女性のためのニットカフェ」などを実施して、参加者が安心して居られる場所づくりに取り組んでいます。今号は「居場所」をテーマに、関連する図書・資料を集めました。

### 『弱者の居場所がない社会』

貧困・格差と社会的包摂

阿部 彰 著  
講談社



社会の中で安心して居る場所は、実はあまり多くない。「社会的排除」と「社会的包摂」の意味を明らかにしつつ、「つながり」「役割」「居場所」が人間の尊厳を保つうえでいかに大切か、実際のエピソードから解説。格差が社会全体に与える影響を数値で示す。

### 『人間の居場所』

田原 牧 著  
集英社



世界は人と人との関係で成り立ち、自立した関係性を築くため、居場所の構築は不可欠、という。難民、LGBT、子ども食堂などを取り上げながら、多数派の価値観とは異なる尺度で営まれる世界としての「居場所」を回復・構築する契機を探る。

### 『第3の住まい』

コレクティブハウジングのすべて

小谷部 育子  
住総研コレクティブハウジング研究委員会 編著  
エクスナレッジ



3.11後、地域における日常的な人と人とのつながりの重要性が再認識されるなか、コレクティブハウジングという“集まって住む”住まい方・考え方に、助け合い、暮らしを共に建て直す潜在的エネルギーを見出す。間取り図、居住者インタビューあり。

## 【「居場所」に関連する図書・資料】



『自分だけの部屋』  
ヴァージニア・ウルフ 著  
川本 静子 訳  
みすず書房



『すべての若者が生きられる未来を  
家族・教育・仕事からの排除に抗して』  
宮本 みち子 著  
岩波書店



『住民主体の地域子育て支援  
全国調査に見る「子育てネットワーク」』  
山縣 文治 監修  
中谷 奈津子 編  
明石書店



『都市社会研究 2017』  
せたがや自治政策研究所  
『都市社会研究』編集委員会  
世田谷区政策経営部政策  
研究・調査課

らぶらす  
ホームページ



<http://www.laplace-setagaya.net>

## 利用案内

らぶらす資料コーナー（ライブラリー）へようこそ！

- ◆らぶらす資料コーナーでは、およそ1万9千点の書籍やDVD、行政資料などを所蔵しています。運転免許証や健康保険証など、住所とお名前の確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録ができます。1回につき3点まで、2週間の貸出が可能です（AV資料1週間まで）。
- ◆らぶらすのホームページから図書・資料が検索可能になりました。是非ご利用ください。

らぶらす開館時間

9:00-22:00

図書貸出時間

9:00-21:30

休館日:毎月第3月曜日  
(祝日の場合はその翌日)

及び年末年始

# 新着図書から

## 『これを知らずに働けますか？』

学生と考える、労働問題ソボクな疑問30』

竹信 三恵子 著  
筑摩書房

ブラックバイト、セクハラ、解雇など、職場の問題は誰にでも起こる。働く権利や働き方についてのルールを知らずに、立場の強い会社に対して一介の社員が立ち向かうのは、ミサイルに素手で立ち向かうようなもの。著者が大学の講義で学生たちから受ける、一見トンデモな質問にきちんと答える。



働く



『ハラスメント時代の管理職におくる職場の新常識』

樋口ユミ 著  
朝日新聞出版



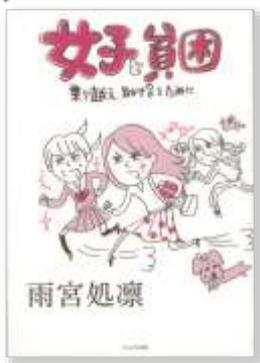
『エキタス 生活苦しいヤツ声あげる』

エキタス 著  
かもがわ出版

## 『女子と貧困 乗り越え、助け合うために』

雨宮 処凜 著  
かもがわ出版

毎月のように電気やガス、電話が止まる経験をし、「毎月何かを滞納して不便を強いられる生活」がどれほど私を疲弊させていたかが身に染みる」「金銭的な不安は何度も私を死にたくさせた」という著者が、貧困に対する制度上の不条理やハラスメントに直面する8人の女子からそれぞれの闘いを聞く。



女子



『誰にも頼れない女(ひと)のお金の守り方』

小山智子 著  
秀和システム



『国会女子の付度日記 議員秘書は、今日もイバラの道をゆく』

神澤志万 著  
徳間書店

## 『産婆フジヤン』

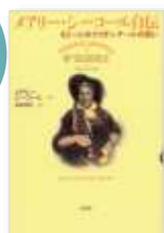
明日を生きる力をくれる、93歳助産師一代記』

坂本 フジエ 著  
産業編集センター

現役の産婆“フジヤン” 93歳は、戦中・戦後を明るく強く、そして優しく、助産師として信念を貫き生きてきた。すべての人は、命がけでこの世に生まれてくるのだから、人生の山あり谷ありを乗り越える力がある、というフジヤンの言葉に勇気をもらえる。



伝記



『メアリー・シーコール 自伝 もう一人のナイチンゲールの闘い』

メアリー・シーコール 著  
彩流社



『女が美しい国は戦争をしない 美容家メイ牛山の生涯』

小川智子 著  
講談社

## 絵本

### ■『わたしも水着をきてみたい』

オーサ・ストルク 作/ヒツテ・スパー 絵  
さ・え・ら書房

主人公ファドマはソマリアからスウェーデンにきた女の子。イスラム教徒のまきまりによって学校のプールには入れないが、女性だけの水泳教室に参加する。異なる慣習を尊重しながら、お互いに相手を受け入れることの大切さを伝えている。



## コミックス

### ■『マンガ レインボーKids』

知ってる? LGBTの友だち』

手丸かこの 著  
子どもの未来社

人と違う私は変なの？とひとり悩んでいる子へ「人の性は、みんな違って当然で、だからこそ個性的で素敵なの」という元保健室の先生の解説があたたかい。性のことを知りたい子どもだけでなく、一番の理解者になるために保護者・おとなにも読んでほしい一冊。



貸出中の場合は予約ができません

## DVD

### ■『少女は自転車にのって』

ハイク・アル＝マンズール 監督  
2012年 制作 サウジアラビア

女性が自転車に乗ることがあたりまえではない国、サウジアラビア。主人公のおてんば娘フジダが男友達と競争するため自転車を手に入れようと奮闘する。サウジアラビアの女性監督が描く、フジダとその母のしたたかで清らかな闘いの物語。



★住所・電話番号が変わりました！

〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-40 グレート王寿ビル3階

TEL:03-6450-8510/FAX:03-6450-8511

らぷらすホームページ <http://www.laplace-setagaya.net>

らぷらす  
Facebook page

facebook



世田谷区立男女共同参画センター

らぷらす